

平成29年度 自己評価及び学校関係者評価書

平成30年2月21日

1 本年度の重点目標

「あたたかしの学校」～ふれあい・あいさつ・そして学び合い～

2 本年度の経営重点

- | | |
|---------------------------------|--------------------|
| (1) 知性をみがき、自分の力で創り出す子どもを育てる | (4) 学び合いを協働する教職員集団 |
| (2) 人間や自然を愛し、思いやりのある子どもを育てる | (5) 保護者や地域との連携 |
| (3) 心身ともに健全で、強い意志と行動力のある子どもを育てる | (6) あったかい関わり |

3 自己評価結果

(評価…ABCの三段階評価)

★は、B評価を中心とした改善策です

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
1 学ぶ力の育成	①言語活動の充実、問題解決的な学習を通して、「思考力・判断力・表現力」の育成に努めている。	A	★「思考力・判断力・表現力」を支える基礎学力向上の取組を行う。 ①8:25～8:35の「いちいタイム」を全校で統一し、確実に実施する。 ＊週…2回読書、2回習熟の学習 ②年2回の計算、漢字コンテスト ③全学年繰り返し計算ドリル・漢字用ファイルを購入してもらい、授業と家庭で継続した取り組みを行い、基礎学力の向上を図る。 ④知能検査の実施…学力との関連性を分析し、学習指導の改善を図る。 ★身に付けた知識技能を活用し、より深い理解にしていくため、対話を大切にしたい授業も充実させたい。 ★問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析し、まとめ・表現できる力を付けるため、総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し作成する。	A	A
	②聴き合いを基盤として、対話を大切にしたい授業づくりを進めている。	A		A	A
	③子どもたちが、夢中で対話したくなるような「ジャンプの課題」を設定することを心がけている。	B		A	A
	④総合的な学習の時間では、育てたい力を明確にして本校独自のカリキュラムがつくれ、実践が進められている。	B		A	A
	⑤TTの活用など、学習内容の定着や習熟を図る指導を展開している。	A		A	A
学校関係者評価者による意見	今回の改善案に沿って、基礎学力向上に向けた取組を推進してください。また、学校図書館を効果的に活用することも、子どもたちの豊かな学びにつながっていくと考えます。				
2 豊かな心の育成・健やかな体の育成	⑥「ふれあい活動」では、子ども同士が互いを認め合い、豊かな関わり合いが生まれるよう教師の支援を行っている。	A	★ふれあい活動（縦割り活動）に関しては目あてをもちながら取り組んでいる。異学年が交流する大切な場として今後も充実させていきたい。 ★「あいさつ・廊下歩行・時間を守る」を生活の重点としている。「あいさつデー」等の単発的なイベントに終わりがちであった。全職員が先頭に立ち、子どもたちへの継続的な指導を行い、この3つのことを通して、他者に対する思いやりの意識を育てていきたい。 ★教科化される道徳については、年間35時間を確実に実施し、計画的に道徳教育を行っていく。 ★①入学の教材セットの中に同規格の跳び縄を取り入れる。②「リズム縄跳び」を学年の発達段階に合ったものに改良する。縄跳び運動を通して、子どもたちの体づくりに努めていく。	A	A
	⑦挨拶や廊下歩行、時間厳守など落ち着いた生活の基盤づくりのための具体的な取組が継続的に行われている。	B		A	A
	⑧副読本・副教材を活用し、計画的に道徳の授業を行っている。	B		A	A
	⑨児童集会、委員会、クラブ活動が、子どもの主体的な活動になるように展開している。	A		A	A
	⑩全校一斉の朝読書を確実に実施し、落ち着いた一日のスタートにつなげている。	A		A	A
	⑪体力向上を図るために、リズム縄跳びなど継続した取り組みを行っている。	B		A	A
学校関係者評価者による意見	道徳については、教科書を活用した授業に留まらず、いろいろな機会をタイムリーにとらえて、子どもたちの心に響く道徳教育を行ってください。また、あいさつについては、その大切さを子どもたちに伝えながら、形式的に終わらせないことが大切と考えます。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
3 保護者や地域との連携	⑫保護者の学習ボランティアやゲストティーチャーの活用に努めている。	B	★ボランティア募集には苦勞する面もあるが、前期はプール学習、後期はスキー学習に力を貸していただき、効果的な学習を行うことができた。 ★参観懇談の場やお便り・ホームページ、学校説明会を通して、平岡中央小の教育について発信してきた。今度もご理解とご協力をいただけるよう丁寧に説明していきたい。	A	A
	⑬「聴き合い、響き合う子」を意識した主張がある学習参観と懇談の工夫をしている。	A		A	A
	⑭児童の生活指導や問題行動に対して、保護者と連携を図りながら指導にあたっている。	A		A	A
	⑮学校便り、学年便り、HPなどを通して、保護者への情報提供が適切に行われている。	A		A	A
学校関係者評価者による意見	是非、学習ボランティアを様々な場で活用し、子どもたちにとって学び甲斐のある学習を実践してください。今年度は総合的な学習の時間ではゲストティーチャーと呼ばれ、子どもたちの深く学ぶ姿に感心しました。				
4 児童理解・環境・安全など	⑯学年研修や各部会では、子どもの（学びの）姿を大切に話し合いが進められている。	A	★支援を要する児童に対しては、担任一人で抱えることがないように、情報共有を密にし、関係機関とも協力しながら、学年・学校として組織的な支援を引き続き行っていく。 ★日頃より危機管理マニュアルに目を通し、各自の危機管理意識を高めていく。 ★年々多忙化する業務であるが、一層の合理化効率化を図り、適切な分配・配置をしていくことで、教師自身がゆとりをもって教育活動に従事していくことができるようにしていく。	A	A
	⑰特別支援を必要とする児童に対して、関係機関やSCなどとの連携を図りながら、学校、学年としての支援体制が整えられている。	B		A	A
	⑱教室や学校内外の環境整備を図り、清潔で安全な学ぶ環境づくりに努めている。	A		A	A
	⑲危機管理マニュアルが教職員に共通理解され、災害時や、来校者や不審者に対しての危機管理の態勢が整えられている。	A		A	A
	⑳校務分掌によって各部の業務が効率的に進められている。	B		A	A
学校関係者評価者による意見	学校の危機管理体制には、これで十分ということはありません。日頃より、様々な状況を想定しながら、万一の事態に備える意識を持ち続けてほしいと思います。				